

みんなの寄付 2021 年冬春期募集 活動完了報告

《申請内容》

『イタリアオペラを子供たちへ伝えるアウトリーチ』

《概要》

コロナ禍によって、合唱などの音楽活動の機会が失われてしまった子供たちに学校公演を行い、オペラを身近に感じてもらう。

イタリアオペラの中から子供にも分かりやすく、楽しめるオペラやシーンを選び、歌唱だけではなく演技もつけて、イタリア語のわからない子供でも興味を持てるように工夫をする。また、出演者のコロナ感染にも留意し、消毒液や飛沫防止シートなどを活用し対策を行いながら実施する。

《報告および成果》

今回は、学校の先生が台本を読みながら、椿姫の物語をパワーポイントの図説を用いて説明し、その場面をテノールとソプラノで演じるという形式での 45 分プログラムのハイライト公演を行った。3 年生から 6 年生の児童が、2 日にかけて鑑賞し、各日 3 時間ずつ実施。

物語の肝となる序曲や、アリアと重唱をカットしつつバランスよくプログラミングし、最後は *Parigi o cara* で、あまり悲劇的にならないように終わらせた。そして、『ヴィオレッタは幸せだったと思いますか?』という質問を投げかけ、児童にこの物語について考えてもらった。

公演の後には感想・質問コーナーを設け、声の出し方について軽く説明したり、ピアノを習っている児童はピアニストに練習のコツを教えてもらったりしていた。また、終了時に感動し、涙を流す児童が複数見られ、ハイライト、かつイタリア語歌唱でありながらも、演技や音楽、椿姫の物語は児童の心に響くものがあったと考える。

また、今回のために作成した台本とパワーポイントのデータは他の小学校で公演をする際にも使用できるものであり、このプログラムを再演することによりオペラの楽しさをたくさんの子供に体験してもらおうことができるであろう。

《今後の課題について》

椿姫の物語自体が少し大人向けということもあり、小学生であれば高学年に適している題材であると感じた。また、中学生や高校生に説明する場合は、よりオブラートを取り払った説明ができるため、パワーポイントの説明を上演ごとに見直すか、小学校用と別で作り直す必要がある。

また、歌っている歌詞がイタリア語であることが伝わっていなかった児童が見られたため、しっかりと事前に説明する必要があると感じた。

次に取り扱うオペラについては、小学生にもより親しみやすい内容であることから、

『愛の妙薬』『ドンパスクワーレ』などが適していると考えます。また、人数を増やして『リゴレット』や『ラ・ボエーム』を扱うことも視野に入れています。(その場合は、体育館などを使い1日1回の公演にする。)

また、私がイタリアにいる間にもこのプログラムが上演できるように仲間の歌手にもデータを広め、手軽に日本の子供たちがオペラに触れる機会を増やせるようにしていきたい。

